



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

松本, 雅彦

CITATION:

松本, 雅彦. はじめに. 京都大学医療技術短期大学部紀要. 別冊, 健康人間学 1998, 10: 1-1

ISSUE DATE:

1998

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/49553>

RIGHT:

は じ め に

松 本 雅 彦

「健康人間学」第10号は、1997年7月の毎週土曜日、4回にわたって本学が開催した第10回健康科学公開講座の講演内容を、各演者に原稿化していただき特集として組んだ。

第10回公開講座は「豊かな生活とコミュニケーション」をメインタイトルとして、本学教官が日頃の研究成果を市民に披露し、それらに対する大学の外からの声に耳を傾けようとするものであった。

今回の公開講座を「豊かな生活とコミュニケーション」と銘打った意図を、公開講座委員長小西紀一は以下のようにまとめているので紹介しておきたい。

「本学部ではこれまで人の健康に関わる問題を学際的に統合された『健康科学』という観点よりとらえ、地域社会の人々とともに考え学べく、健康科学講座として9回にわたって開催してきました。

過去9回の講座において、身体や心の健康についてさまざまな視点から話題を提供してきました。その中で、物質的な豊かさに恵まれた現在の生活に秘められた問題点もいくつか明らかにされました。そして、さらに高いQOL（生活の質）をめざすための指針も示されてきました。

今回は、第10回という節目に当たり、今一度、豊かさの中における『健康』を学際的な観点からとらえ、まとめてみることを目的に据えました。豊かさの本質は単に物質的なものによって支えられるのではなく、生活の基盤を包む『社会・文化的』価値観によって判断される側面もあろうかと思われます。情報の氾濫と形容される社会・文化的環境に包まれて生活する現代人にとって、『健康』を獲得・維持していく上で適切な情報の選別・取り込み一すなわちコミュニケーションが重要な鍵となることも多くあります。

このような背景のもとに『豊かな生活とコミュニケーション』というテーマを掲げ、身体・心・文化のコミュニケーションをさまざまな専門的視点から分析し、豊かな生活に一步でも近づくための指針を提供したいと思います」。

今回の公開講座には、65名の一般市民が参加し、活発な質疑応答が行われたことを記しておきたい。